



徳島の崖崩れ

以前にTBSテレビ系列の『噂の東京マガジン』で2回にわたって取り上げられたことがある徳島市眉山裏手の宅地造成地。台風災害で裏山が崩壊を始め、分譲地を購入しすでに居住していた住民は団結して開発会社に防災対策を求めた。開発会社は宅地造成法に準拠していることを理由に交渉に応じず、徳島県庁も開発会社に対して具体的な指導を行うことなく時間が推移し、危険を感じた住民の一部は居住することをあきらめ、すでに移転を余儀なくされている。

この事例は「人はなぜ危険な所に住まなければならないのか」について考えさせられる契機となったもので、住民・防災行政・デベロッパーの間に全くと云ってよいほど意思の疎通が図られなかった最悪のケースではなかったかと思われる。

現地の今現在の状況を見る限り、問題は何も解決されておらず、地域の豪雨災害や地震災害に対する危険度が解消された訳でもない。このような場合に一体どうすればよかったのか、開発を認可した行政関係者は一度きちんと一連の事件を検証してみるべきではないだろうか。今後同じような問題を起こさないために。